

# 学校プロフィール

学校名(鈴鹿市立合川小学校)

【平成23年4月】

## 1. 目指す学校像について

項目	内容
(1) 目指す学校像	「今日も学校へ来てよかったな、明日も来たいな」と子どもたちが思える学校 ① 活力と潤いのある学校(知) ② 自然と命を大切にできる学校(徳) ③ 心身ともに逞しい児童の育成をめざす学校(体) ④ 地域と共に歩む学校
(2) ありたい姿(実現したい学校の状態) 今の学校が「目指す学校像」に向かうため、「こうでありたい」と考えている具体的な学校の状態や目標について、記入してください。	①「確かな学力」を身につけた自分に自信をもてる児童を育成する。 ②「少人数だからこそ、『一人ひとりを大切に、自分を大切に』の意識の共有をめざす。 ③差別や偏見の問題に気づき、一人ひとりの力で問題を解決していこうとする実践力を養う。 ④学習のつまずきのある児童(発達障害児)の発見に努め、早期に支援する体制を整える。 ⑤「地域の人の仕事」や「すずか夢工房」の人たちに学び、児童自らが一人ひとりの特性や個に応じた「将来の夢」をもてるように努める。 ⑥学校運営協議会を活用し、学校・家庭・地域が一体となって鈴鹿型コミュニティスクールを推進する。

## 2. 現状の認識について

(1) 「価値」を提供する相手方		
① 相手方の区分	②現在の要求・期待	
児童	・よく分かり、楽しい授業を工夫する学校 ・友だちと楽しく、安心して過ごせる学校 ・自分も友だちも大切にされていると実感できる学校	
保護者	・友だちと仲良く安心して学べる学校 ・基礎基本の確かな学力を身につけた児童を育成する学校 ・自信を持ち逞しさをもった児童を育成する学校	
地域	・元気にあいさつができる子 ・地域に愛着を持つ子 ・開かれた、気軽に足を運べる学校	
(2) パートナー		
①パートナーの区分	②パートナーからの要望・期待	③パートナーへの要望・期待
PTA	・気軽に相談、話がしたい。	・学校行事・教育活動等への参画
地域	・あいさつができて、地域に愛着を持つ子の育成 ・気軽に足を運べる学校	・児童の安全面、学校環境面での支援
天栄中学校区の保小中学校(所)	・児童園児の交流(保) ・情報の共有(保・小・中)・学力保障(中)	・情報交換・活動交流
教育委員会	・鈴鹿五策の実現に向けた教育の取組	・学校が主体的に教育活動ができるような支援
(3) 組織の現状 「ありたい姿」の実現に向けて、現在、認識している学校の状態や学校を取り巻く環境について、記入してください。	・地域住民の方は、130年を越える歴史ある地域の学校という意識があり、学校に愛着を持っている。 ・子ども同士のつながりが深く、全校で行う諸活動が定着している。 ・児童数の減少により、交友関係が固定化している。 ・PTA会員数が減少しているため、児童の安全確保、学校環境の維持等が難しくなっている。	

## 3. 目指す学校像実現のための重要な視点(方針)について

(1) 重点化に向けた視点 「ありたい姿」の実現に向けた学校の重点取組を導き出すための、学校経営における重要な視点や方針を記入してください。	① 基礎基本の学力保障に向けた取組を推進する。 ・漢字の先取り学習の実施 ・家庭学習の習慣化と定着 ・合同体育を生かした実践 ・授業公開、研究授業の推進 ② 教職員一丸となって問題行動の未然防止に努める。 ・気持のよいあいさつ ・心のサポーターの活用 ③ いじめ・不登校問題を中心とした取組を進める。 ・縦割り班活動の充実 ・中学校区の交流 ④ 家庭・地域・学校とが相互理解し、地域と共に歩む学校づくりを推進する。 ・鈴鹿型コミュニティスクールの体制づくりによる保護者、地域との連携強化 ・各種ボランティア活動による学校支援 ・児童の関わる地域活動への参加、協力
(2) 上記の背景・理由 「重点化に向けた視点」に記入された内容を重視している背景や理由について、記入してください。	・小規模校の強みは、一人一人にかかわれる時間が多くとれることである。一人一人の実態把握を行い、その子に応じた、学習指導・生徒指導をきめ細やかに行うことができる。 一方、弱みは、大きな集団の中で鍛えあうことができず、社会に出るときに戸惑いを感じてしまうことである。強みを伸ばし、弱みを克服するために、上記のことを重点的に取り組んでいく。 ・PTA会員数が減少するとともに保護者は多忙である。また、高齢化も進んでいる。しかし、地域の自治会関係者はじめ地域住民と学校との関係は良好で、協力して活動を進めていく素地がある。